

## LINN LP-12 の再構成(35) (HP 収載)

### 1. はじめに

懸案事項であった LINN LP-12 のフォノケーブルをバランス化し、これに合わせて修理や調整を行います。

### 2. LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

現在、LINN LP-12 のフォノ出力は、アンバランス出力ケーブルからアンバランス→バランス変換コネクタとバランスアナログアキュライザー経由で ZANDEN Model 120 にバランス入力しています。このアンバランスケーブルをバランスケーブルに交換し、変換コネクタを除去することを検討します。

この機会に合わせ、ターンテーブルのメカの強化や精度の向上、ならびにモーターの電流を強化し、ターンテーブル回転数への影響を減らすなどの調整を実施します。同時にベルトを新仕様のものに交換します。

また、並行して ZANDEN Model 120 のバランス入力、アンバランス入力ともハイゲイン位置で R チャンネルの音が出ないことの修理も行います。さらに、仮想アースに ZANDEN のフォノイコライザーを接続しているアースアキュライザーを AV ドーナッツに通します。

なお、アームダンパーはこれまでの状態を保持し、アームの CD クリーナー処理をやりなおします。

以上の対策の効果を下記音源で行います。

**LONDON 360R 56009**

モーツアルト デヴェルティメント第 17 番

ウィリーボスコフスキー指揮ウィーンモーツアルト合奏団

**Angel AA-9117・C**

ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

また、今回の整備を行っていただいた LINN ショップ持参の下記の音源も試聴しました。

**アルファレコード (ワーナーパイニア) 28R1-13**

**Wind and My Mind**

鈴木章治とリズムエース

### 3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

音出しにより、バランス入力の不具合のフォノイコライザーの修理は、部品の取り換

えで修理が完了していることを確認できました。

最初にベルト交換前の状態で聴いていきましたが、一聴して分かることはバランス化により静寂感が向上していることです。

モーツアルトのデヴェルティメントは、ウィーンモーツアルト合奏団の艶のある優雅な演奏が際立ちます。

メサイアは、合唱の分離の度合いが向上し、弦の艶やソプラノのシュワルツコップのヴィブラートの効いた歌唱のニュアンスも向上しています。

鈴木章治は、クラリネットの倍音がよく伸び、ベースの低域の沈みこみが聴き取れます。

さらにベルトを交換しますと、モーツアルトのデヴェルティメントは、ウィーンモーツアルト合奏団の艶に加えてコントラバスの量感もでできます。

メサイアは、先の効果に加え、通奏低音の量感と明瞭度が増します。

鈴木章治は、先の効果に加えてリズム感が向上し、一層のベースの沈み込みと弾みがでできます。

試聴は、改造と調整を依頼した LINN ショップ代表とともに行いましたが、モーツアルトのデヴェルティメントの美音や鈴木章治の眼前に展開するようなリアルな表現を評価されていました。

#### 4. まとめ

フォノケーブルのバランス化がメインの改良点ですが、ターンテーブルのメカ強化やモーターの電流強化、アースアキュライザーを AV ドーナッツに通すことなども合わさって顕著な効果を認め、さらに新仕様のベルト交換の効果を認めました。

以上